Ninoshima

似島

第3号

ホタルの里通信

発行：南区魅力発見委員会　ニノシマボタルを育てる里人の会
〒734-8522　南区皆実町一丁目5-44　南区区政振興課内
TEL082-250-8935　FAX 082-252-7179

ホタルが育つ環境を守るため、一生懸命活躍するニノシマボタルを育てる里人の会。その活動の典型的なスケジュールを、とある1日を振り返ることで見てみましょう。とても、楽しい1日ですよ。

写真ルポ　ニノシマボタル里人たちの一日

9:20　宇品港集合

宇品旅客ターミナルに集合で、みんな和気あいあいです。　初参加でもスタッフが優しくみんなへ紹介してくれるので、大丈夫！

9:30　宇品港似島行き桟橋出発

２０分ほどの短い広島湾の船旅です。船内でごろ寝できるフロアーがあり、子どもたちも含め楽しいひとときです。

9:50　似島学園桟橋到着

似島臨海少年自然の家に向かって、島の東海岸沿いを和気あいあいとのんびりウォークです。

10:20　似島臨海少年自然の家到着

着替え後、新入会員さんやスタッフの紹介をしながら、前回の活動のおさらいや活動方針の再確認などをします。

10:45　ホタルの里環境整備

自然の家から歩いて５分の場所にあるホタル池周辺の環境整備をします。

子どもたちも交えて草刈りや竹やぶの伐採などをします。広島市の昆虫館の坂本先生などが中心になって、ＰＨ・気温・水温などの測定観察もします。

ここちよい汗をかきながら、大勢で作業しますので、みちがえるように、池の周囲がきれいになります。

11:30　活動の話合い

これまでの活動を振り返りながら、今後の活動方針などを話し合います。

12:00　昼食

少年自然の家に戻って、みんなで楽しいお弁当タイムです。

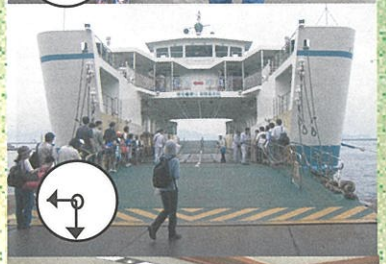
12:45　ホタルの里環境整備

状況に応じて、午前中の作業の続きです。

14:00　自然観察会＆自然体験レクリエーション

坂本先生による楽しい昆虫観察講座をしたり、蛍篭づくりのような体験活動をします。子どもたちの瞳が大きく輝くタイムで親子で楽しい思い出になること間違いなしです！

16:00　似島港出発
16:20　宇品港到着・解散



里人大募集

あなたも似島ホタル救助隊に参加しませんか？

問合せ先
南区区政振興課：082-250-8935
似島公民館：082-259-1100

ニノシマボタルを育てる里人の声

ニノシマボタルを育てる里人の会を支える多くの人々。その皆さんに話を聞きました。

似島からみえてくる地球環境

似島に生まれ育ち里人の一人として活動される蒲原邦夫さんは「仕事をしている頃は島から都心に通っていました。定年後は島での生活を楽しんでいますが、気になるのは、これまで島で見ることのできなかった雑草が増えてきたということです。また子どもの頃見ることのなかった鳥も、ここ4～5年、多く見かけるようになりました。似島は自然に囲まれた島です。それだけに自然の変化を、環境の移り変わりを、どこよりも早く、そして強く感じられます。地球環境のバロメーター、大切な場所だと思います。若い頃、島に橋をかけるという夢物語も語られていたようですが、今となっては、そんなことにならず本当に良かったと思います。地球の移り変わりを知るためにも、似島の自然を大切にしていきたいと思います。」と話されました。

郷土愛を育むために

似島中学校では総合的な学習の時間の一環で参加されています。昨年は5月に1年生、6月に3年生、そして今年2月には2年生の皆さんに里人の一員として参加していただきました。岡教頭先生は似島の自然に対する想いを「似島中学校では、この里人の会への参加だけでなく、地域の特性を活かし、自然と触れ合う取り組みを多く取り入れています。とりわけ4月には全校生徒がローボート2艇で似島を一日がかりで一周する宿泊研修が特徴で、似島の自然を見つめなおす機会としています。

また、地元の漁師さんの協力を得て、たこつぼ漁などの漁業体験も行っています。他の中学校では味わえない海と山の自然を利用した、体験活動を行っています。」と話されました。

またニノシマボタルを育てる里人の会について「里人の会には島以外の人が多く参加され、汗を流されています。そういう、島以外の人が島の自然を大切に思い、環境整備に取り組んでいる姿を子ども達が見るということが、大切だと思っています。そこに郷土を愛するこころが育まれることを願い、これからも参加していきたいと思っています。」と話されました。

都心から最も近いホタルの里

似島臨海少年自然の家の山崎健一さんは里人の活動について「いつも活動の拠点として利用していただいていますが、まだまだ一般の人は島にホタルが出るという事を、ご存じない人も多いと思います。最近、環境保護の高まりから、各地でホタルを保護しようという動きが出ています。そんな中、似島はとても手軽にホタルの里を訪れることができます。船だと「遠い」というイメージがありますが、宇品から船でわずか20分です。似島港又は学園桟橋から、さらに歩いて20分、公共交通機関だけでホタルの里を訪れることのできる場所なんです。都心から最も近いホタルの里と言えるのではないでしょうか。」と話されます。また、似島の魅力を活かした取り組みについて「自然の家では、海や山を活かし野鳥観察や登山、海カヌーなど自然体験講座ができるプログラムを多数用意しています。学校単位でしか利用できないと思っておられる方も多いと思いますが、家族やグループ、職場での研修による利用も大歓迎です。是非、皆さん似島臨海少年自然の家にお越しください」と話されました。

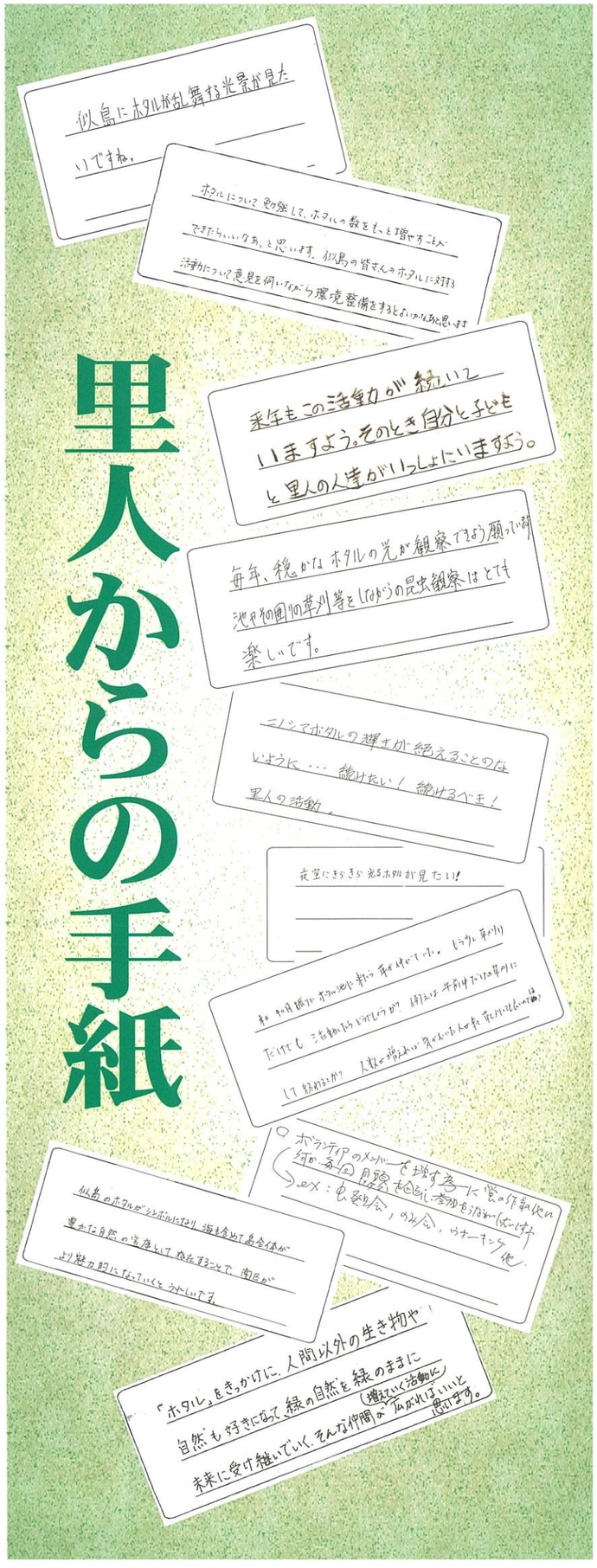
地域の歴史を知ってもらうために

里人の一員として協力していただいている増田誠公民館館長よりお話を伺いました。「公民館は地域を活性化する場として地元の人にご利用いただいています。ニノシマボタルを育てる里人の会は、その一環で取り組んでいます。島の子ども達や島以外から多くのボランティアの人達が来てくれます。そうした人達に似島の歴史・文化に触れて欲しいと思います。」と話されました。

ニノシマボタル〝過去・現在・未来〟

広島市昆虫館　坂本　充

似島に人が入植し、生活を始めたのは今から約600年ほど前の室町時代と言われています。当時の島はコジイやタブ、クスなど照葉樹の大木に覆われ、その景観はあたかも現在の元宇品公園のようであったと想像されます。鬱蒼と茂った木々の梢に太陽光線は林内への進入を阻まれ、その結果、森は昼でもなお暗く、下草ばかりか林内を流れる細流中の藻類も貧弱であったはずです。また、降り注いだ雨は急峻な地形を流れ下ることで、そのたびに細流の泥や有機物を押し流していたに違いありません。こうした環境下ではニノシマボタルの幼虫の餌となる日本在来の水生巻貝類は生息しなかったか、あるいは個体数は極めて少なかったと考えられます。そこで私は〝かつて似島にはヘイケボタルはいなかった〟と推測しています。では、どのような理由でニノシマボタルは似島に生息するようになったのでしょうか。入植者は当時の主食であった米の栽培のために水田を営んだに違いありません。ヘイケボタルの幼虫の餌であるモノアラガイやヒメモノアラガイが本土から持ち込まれたイネ株や水鳥の脚に付着し、照葉樹林を切り開いて作られた水田に進入、定着するのに多くの時間は要さなかったでしょう。あるいはイネ株にヘイケボタルの幼虫が既に付着していたかもしれません！けれど私は〝人による意図した持ち込み〟が主たる原因であると考えます。決して楽ではなかったであろう生活に彩を添えるため、あるいは子どもや妻への土産だったのかもしれません。大切に本土から運ばれ、水田に放たれたヘイケボタルの光に入植者はどんな思いを重ねたのでしょうか…　やがて時は移ろい、現在では似島に水田を見ることはできません。かつては島内中で見られたニノシマボタルは、湿地化した放棄水田や山すその溝などわずか数ヶ所で、忘れられた存在としてひっそりと命脈を保っているに過ぎません。彼らの命を将来に繋ぐ活動は、かつて似島にヘイケボタルを持ち込んだ人々の思いを繋ぐ活動ともいえるのではないでしょうか。そんな思いを抱きつつ、〝持ち込まない、持ち出さない〟を合言葉に、3年目となるニノシマボタルの保護活動に取り組んでいきたいと考えています。



これまでの活動

平成13年：南区で唯一、ホタルが生息する似島。平成13年に島民の「休耕田を活用してホタルの住みよい環境を作ってほしい」との声に応えた南区が、森林公園に相談。現地調査したところ、ホタル生存の可能性を確認。

平成14年度：区として独自に調査研究を開始。

平成15年度：専門家に依頼し、似島公民館の協力を得て全島を対象に生息調査を行った。５月から９月末までの５ヶ月間に渡って行われ、聞き取り調査及び現地環境調査を基に、生息の可能性の高いと考えられる水域を対象に現地実態調査を行った。その結果、限られた水域ではあるがヘイケボタルの生息を確認するが、改善の必要性ありとの報告を受けた。

平成16年度：本格的な整備事業がスタート。南区の魅力づくり事業に位置づけ、ホタルの里を整備する里人ボランティア「ニノシマボタルを育てる里人（南区魅力発見委員会）」を募集した。

平成17年度：平成17年７月24日(日)に地元の人と協力し「似島ホタルの里」の現地案内看板を設置。平成18年３月19日(日) 観賞用ベンチを設置。

その間、南区、それも島にホタルが出るとの話題は大きな反響を呼び、NHKなど地元テレビ局などで何度となく紹介された。

平成18年度：里人により、5月下旬から1ヶ月にわたり定点観測を実施。その間、５百匹近いホタルを確認。整備の効果現ると、里人たちの期待も膨らむ。6月には泊り込みで整備作業に汗を流す。夕食後、ホタルの里で雅楽の演奏の中、ホタルの乱舞を楽しむ。

平成18年度ホタル出現状況

5月28日	晴れ	10匹
5月29日	晴れ	15匹
6月 1日	曇り	40匹
6月 3日	晴れ	68匹
6月 4日	晴れ	120匹
6月 5日	晴れ	100匹
6月 9日	晴れ	40匹
6月11日	晴れ	40匹
6月14日	曇り	16匹
6月24日	曇り	20匹

2007年の活動予定

・4月22日(日)
・5月27日(日)
・6月9日(土)～10日(日)
　ホタル観察会
・8月26日(日)
・10月28日(日)

会長の独り言エッセイ「ホタル」

暗闇にほのかな明かりを灯し舞う姿には人の心を惹きつけて止まないものがある。大人も子供もその飛び交う光に心動かされる。そんなホタルを蘇らせる企画と聞いてこのボランティアに参加した。

しかし似島にホタルがいるのか最初は半信半疑。山の中なら分かるけど瀬戸内海に浮かぶ小さな島に本当にいるのかな？

広島市南区の区政振興課の皆さんが中心になって"ホタルの里人"を立ち上げた。

まずホタルの里作り。みんなで話し合い広島市森林公園の坂本さんのアドバイスを受けながら蛍がいるという休耕田に入る。休耕田は似島の宮崎さんにお願いして使わせて貰う事にした。

草を刈り竹を切り畦を作りホタルの棲家を作る。普段使わない身体のあちこちが音を上げる。未だ見ぬホタルが来夏には乱舞する様を想像しながら身体に鞭を打つ。老若男女が同じ思いを抱いて懸命に作業する。いつしか不思議な連帯感が生まれる。作業の後の昼食もとても美味しい。

志を同じくする者同士の語らいは普段味わうことの出来ないものだ。行き帰りのフェリーでの会話も楽しみのひとつ。夏の観察会は最高のイベント。

大事に育てたホタルが沢山飛んでくれる事を夢に描いて似島臨海少年自然の家で宿泊。日が沈んでホタルとご対面。雅楽の演奏を聴きながら皆で育てたホタルが飛ぶのを我が子のことのように慈しむ。夜は皆で車座になり夜更けまで色んな事を語り合う。坂本さんの面白い話で盛り上がり時間が経つのを忘れる。

似島の皆さんのご支援も頂いた。婦人会の皆さんが総出で美味しい豚汁やぜんざいなどをご馳走してくれた。似島中学校の生徒や公民館の皆さんもいつも応援に駆けつけてくれた。これからもずーっと里人の皆さんとホタルを育てて生きたい。

ニノシマボタルを育てる里人の会
会長　宮本　輝昭

南区魅力発見委員会

南区の魅力に関する情報をお寄せください。
〒734-8522　広島市南区皆実町一丁目5-44　南区役所区政振興課内
TEL082-250-8935　FAX 082-252-7179 E-MAIL mi-kusei@city.hiroshima.jp